資料①

令和5年度 第1回 大槌町総合教育会議
提案書

ーけやき共育が目指す姿を実現するためにー

KATARiBA
Shape the Future

Copyright © 2023 KATARIBA All Rights Reserved.

けやき共育が目指す姿（会議資料より作成）

KATARiBA
Shape the Future

けやき共育

大槌町の０歳から１８歳までのすべての子供たちを対象に、特別支援教育の視点で支援することで、「目指す子どもの姿（自立・協働・創造）」「誰一人取り残さない学びの保障」の実現を目指すものである。

最上位目標

１．すべての子供たちが、安心・安全に学習ができる
（※すべての子供たちのウェルビーイングの実現）
２．すべての子供たちに適切な支援ができる

上位目標

①幼児への支援が充実している
②児童生徒一人ひとりに居場所があり、個に応じた適切な支援ができている
③保育園、幼稚園、こども園、小中高校の教員が、特別支援教育の視点で、子供たちを支援することができている
④保護者や地域で「けやき共育」の理解ができている

「特別支援今日の視点で支援する」とは？

幼児児童生徒の自立や社会参加に向けた主体的な取組を支援するという視点に立ち、幼児児童生徒一人一人の教育的ニーズを把握し、その持てる力を高め、生活や学習上の困難を改善または克服するため、適切な指導および必要な支援を行うものである。

令和5年度のけやき共育の目標

◎子供たちが安心・安全に学習ができる
◎総合教育会議を要に、今年度の事業をPDCAサイクルで推進する
◎各事業を通して、町民・教職員・教育支援施設職員がけやき共育の目的を共有し、子供たちへの支援のあり方を、町民・教職員・教育支援施設職員等が共に学び、子供たちへの支援の充実を図る。

目指す姿の実現に向けて－目標の精緻化と対応する施策－

KATARiBA
Shape the Future

ひとつひとつの目標と達成のための施策、評価指標を対応させる

けやき共育が目指す姿、最上位目標と上位目標、今年度の目標のつながりを明確にし、それぞれの目標とそれを達成するための施策、達成度を測るための評価指標を対応させそれる。また、その目標が達成された状態がどのようなものなのか具体的に言語化しておく。**施策のPDCAが正しく回るようにするため**でもあり、場合によっては施策内容だけでなく目標自体も修正する。

目指す姿

誰一人取り残さない学びの保障
※すべての子供たちのウェルビーイングの実現

最上位目標

すべての子供たちが、安心・安全に学習ができる

◎「安心・安全」とは？どうやって測る？
◎「学習」はどんなことができていればよい？

今年度の目標

子供たちが、安心・安全に学習ができる

◎「子供たち」に含まれる範囲は？
（令和5年度の対象範囲はどこまで？）

施策 1	施策 2	施策 3
評価指標 1	評価指標 2	評価指標 3

目指す姿の実現に向けて②ーモニタリング環境整備ー

KATARiBA
Shape the Future

不登校状態・不登校傾向の児童生徒の支援状況をモニタリングする

不登校状態にある児童生徒および不登校傾向の児童生徒をエクセル等でリスト化し、定期的に開く支援チームの会議で欠席状況や支援状況をモニタリングする。また、併せてそれぞれの児童生徒に対する対応を検討する。

誰一人取り残さない学びの保障、そして「すべての子供たちが、安心・安全に学習ができる」状態を達成するために、不登校状態・不登校傾向にある児童生徒を状態を正しく把握し、関係者に共有したうえで支援を検討する

※モニタリング表のイメージ

氏名	学年	在籍校	欠席日数	担当者		
○○○	5年	A小学校	40日	担任		
△△△	2年	B中学校	20日	SSW		
・・・	1年	B中学校	30日	担任		

・どのような状態になったらリストに名前を掲載するか決める
（例えば「欠席が25日を超えたら」など）

・リストの共有範囲と、モニタリングを行う会議の参加者を決める
（例えば、教育委員会相談チーム＋特別支援コーディネーターetc）

・表に記載する項目を決める
（状況の把握、支援の検討に資する情報を記載したい）

目指す姿と最上位目標を踏まえ、「不登校児童生徒につながっている大人がいる」状態、「不登校児童生徒への学習の支援体制ができていて、それを活用している」状態がどの程度達成されているか、このモニタリングを通じて把握してはどうか。

目指す姿の実現に向けて③ー特別支援教育の視点ー

KATARiBA
Shape the Future

日常の中ですべての子供たちを特別支援教育の視点で支援できる施策を

けやき共育では、特定の児童生徒のみではなく、すべての子供たちを対象に特別支援教育の視点で支援するとしている。すべての子供たちに対する特別支援教育的な視点での支援とは具体的にどのようなことを指すのか明らかにし、教員や支援者が実践しやすい状態をつくる。研修で学んだこと等を「特定の場面で特定のこどもの支援に活かす」だけでなく、「**日常の中ですべてのこどもに活かす**」視点をもつ。

出典：「戸田市教育委員会 令和5年度 指導の重点・主な施策」より

第１層支援の充実を図る

・第１層支援にあたる取組を明らかにし充実させることが、すべての子供たちを特別支援教育の視点で支援することにつながる。

・第１層支援に関連するものとして、生徒指導提要の「発達支持的生徒指導」にあたる取組も参照されたい。

目指す姿の実現に向けて④ーICT活用ー

KATARiBA
Shape the Future

相談と学習において「子供が使いやすいかたちで」ICTを活用する

任意のICTの活用においては、利用者が使いたいと思えることが重要であり、そのためには使用時のストレスをできるだけ低減することが望ましい。ICTツールを導入・活用するだけでなく、子供たちにとって使いやすいものになっているか？という視点をもって、利用プロセス等を改善していく必要がある。

おーちゃん相談窓口の相談プロセスチェック

こども → STEP1 → STEP2 → STEP3 → 相談員

- 総合教育会議において説明された相談の方法は、操作手順が多いように感じられた。
- 今後、実際の相談件数を見つつ、使用感についての児童生徒の意見もヒアリングし、場合によっては操作手順等の更新を検討する。
- **利用者である児童生徒の意見、児童生徒たちが感じている使いやすさ / 使いにくさに耳を傾けることが重要である。**

ICT学習教材「eboard」の活用

eboard

- 不登校および別室等で学習する児童生徒を主な対象に、ICT学習教材「eboard」を活用する。
- 学校で配布されている端末からeboardが使えるよう設定する。
- 不登校児童生徒の場合、端末を持ち帰ることができるようにする。

※「eboard」は公立学校や家庭では無料で使用することができ、学び方や認知に凸凹がある子供でも使いやすいように配慮した設計がなされているICT学習教材である。